

海外日誌

在来 山本 一 清



十一月一日(水)

今日午前中、ホツプ板の測定の後半を終つた午後はその計算にかゝる。天氣はわるい。下宿の御主人ペンビー教授に二週間分の下宿料金六十弗也を拂ふ。教授曰く「Thank you very much!」

十一月二日(木)

今日も終日計算。空は晴れたが月が明るくて慧星は絶望。シカゴの島津氏より、「二度で、こい」といふ御手紙。なるほど、田舎者は時々みやこ上りをせねばなるまいと、いろいろ考へて見る。夜は、爐の前で、英子とミス・ウンビーと三人で、フランスの話、ベルツツクの話。日本の話。

十一月三日(金)

今日も計算したり讀書したり。おひる前、パークハースト教授の室を訪ひ、寫眞光度測定を見る。午後、サリバン夫人やブラクスリー氏等に、當天文臺製幻燈書を全部見せて貰ふ。中々の出来榮え。ほしいものも澤山ある。何れ、歸る時は日本への土産ものだ。

夕食前、英子と二人で村を散歩した。當地へ來てからこれが始め

て。今までは天文臺の構内より外へは、何だか不案内で出られなかつた。今日は思ひきつて、八百屋のある邊まである。村の子供たち、珍らしそうに、あちこちから吾々をながめる。

十一月四日(土)

オフイスで計算やら讀書やら。

空曇り。

十一月五日(日)

朝十時パークハースト教授と共に教會に行く。禮拜式の中途から自分等の後ろの席へ、何だか大聲で歌を歌ふ男が來たワイと思つてゐたが、式後、見ればそれはフロスト教授であつた。日曜學校には幼年組のミス・カルパートの組を參觀す。今日は此組の成績はわるい。

午後三時頃、英子と湖岸へ散歩に出たら、はからずもストルフエ君が一人ホートを漕いで、チャブ／＼やつてゐる。吾々を見ると、*Do you come here? Yes!*。そこで直ちに日露同盟成立。露西亜は漕ぎ役、日本は乗り役。日没まで約一時間、美しいセネパ湖上を遊びまはる。英子は此の日、生れて始めてホートなるものに乗つた。海國の人としては恥かしい次第。但しストルフエ君も、大陸育ちのこととて、水上の気分は當地で始めて味はつたさのざんげ話。そして「I can not swim.」といつて威張つてゐる。

十一月六日(月)

英子はオフイスで、日本時間とシカゴ時間の對照表を作る。之を寢室の壁にはつて、ひまがあれれば、「今頃、日本は丁度お晝だから、進坊は學校から歸つて御飯をたべてゐるだらう。」「今は日本の午前三時だ。皆まだ、れてゐるだらう」と、三千里あちらのことを考へる筈。

今日、ホツプ板の計算終了。結果、此寫眞板より得たる星の位置は、平均五秒以上の誤差無しと判明。「今より七十年の昔、ドイツのボン大學でアルゲランテルがボン星表製作を企て、以來、其の完成までに、彼ら其の後輩達は實に五十年の歳月を費した。しかるに今此の二吋のホツプ寫眞玉を用ゐて、晴夜、僅か二十分の曝露をやれば、十度平方の天の全部のボン星は立派に撮影せられ、測定は晝

間に行ふさすれば、疲勞も少なく、時間も經濟であり、普通の勉強で、ボン天文臺の半世紀の仕事も、僅か一ヶ月でし上げる事が出来るわけになる」と言つて、バンビー教授と二人で、しきりに寫眞の有難きを感心す。

夜英子はリイ夫人につれられて、ミス・カルパー方の婦人會に行く夜空は曇り。パーナード教授は、圖書室で、しきりに星の小圖をかいてゐられる。ストルフェ君も九時頃迄勉強してゐたが、いつのまにか、無線電話のところへ行つて、受器を耳にあてながら、小一時間ほど、シカゴの音楽をきいてゐる。

十一月七日(火)

バンビー教授より新に二枚の寫眞板を與へられた。一は六時玉、他は十時玉の産物で、バンビー氏の求めにより、去る日、パーナード教授がブルース望遠鏡で北極附近を撮影したものである。今日から此の二枚の研究にかゝる。まづ取りあへず、星撰ひ。

今日は米國の選挙日、數日前から新聞などにやかましい。バンビー教授も、今朝々食の時から、*Iran an American citizen* といつて威張つてゐる。午後三時、盲目のフロスト教授、例の大聲大元氣で、來り「ミスタ・ヤマモト。選挙場へ一しよに來て見ないか？」はフロスト夫人とバンビー君が既に席を占めてゐる。そこへ、御大フロスト教授、バンビー教授、リイ夫人、ストルフェ君及び僕等の五人が乗り込んだ。ドアをしめれば、バンビー君のドライブで、車は五十哩の大速力で、選挙場へ。選挙場は村の圖書館。そこで男女四人皆かばるゝ秘密投票。ストルフェ君と僕とはアメリカ人でないから、單に見物。

夜、曇り。英子と二人でリイ氏訪問。主人不在。夫人と世間話し英語を教へてやるまで、シヨツピンカのお稽古。

十一月八日(水)

昨夜からの約束により、今日は午前中、バンビー教授案内で、吾々二人は村の學校を參觀。一年生のイロハから、ハイスクールの最上級まで全部の授業を見る。英子は日本服の正裝をして行つたので子供たち大はしやぎ。

午後六時寫眞板を測定。

夕方曇りなので、パークハースト氏を訪問したが、教授は不在。夫人と話す。

今日からニユウヨークタイムス來る。

十一月九日(木)

午前中、ブルース十時寫眞版測定、それから計算

十一月十日(金)

今日で十時及六時板の計算を終つた。夕食前、英子と二人、村へ散歩に行き、ミスタ・ヴァレンティン氏のところまで散髪をした。西洋人の床屋は之れが始めて。頭を水で洗はない。

十一月十一日(土)

今日はシカゴ行きとあつて、朝、特別早く起きた。そして、七時に食事を終り、急ぎ停車場にかけつけて、まだプラトフォムに來てゐない列車に乗つた。例によつて、パレット教授と同車。もはや、之で三度目のシカゴ入りなので、北西停車場に着いてからも狼狽はしない。宅でバンビー氏に教へられた通り、何はともあれ、第一番目にコーン銀行を訪れて、ラサル街の大建築に入つたところが「今日は休戦紀念のホリデイ」とあつて、オフィスは休み。仕方なく、又、街路をぶらついた。マアシャルフィールドへ入つたが何も買ふ物はなし。正十一時には、丁度、ワシントン十二時なのので、まらの人々は誰でも皆嚴肅に其の居所に立止つて、黙禱をしてゐるのを珍らしく見た。

午後一時、ステイト街ルーゾヴェルト館に入つて、評判の *When Knighthood was in flower* を見た。時間の都合上、一まはり半を見つめて、頭痛がして來たので、三時半、外に出て、電車で、第三十六街の青年會館についた。午後八時から一時間半ほど、天體の講話をした。集つた人は三十名ほど、多數は在留の日本學生であつた。夜は島津氏方にさまる。

十一月十二日(日)

朝九時に起く。雨が降つてゐる。十時朝食。それから兩人は島津氏に案内されて、下町ミシガン通のセントラル教會へ禮拜に行つた

コララス大變に宜ろし。正午、出口のところで、「ヤマモトサン(く)と呼ぶ人があるので、ふり返るを、それはクラフトン氏。きけばカンザス市から着いたばかり、今夜、アトランティック市へ青年會の大會に行くとのことであつた。惜しいと思つたけれど、二三分間の立話して、別れた。午後は島津氏宅でボンヤリ。雨が降るので仕方がない。今夜もさまる。

十一月十三日(月)

ふと、青年會で田崎氏に會ひ、共に島津氏宅に歸つて、大に話した。午後には、又、錦織氏も來た。自分が英子を連れて此の國に來てゐるので、錦織氏は、しきりに「君は宜いことをした」をくりかへす。

午後三時四十五分、西北ステーション迄島津氏に見送られ、歸りの汽車に乗つたところが、ちやうど、車の中に、バーナード教授とサリバン夫人とが居られたので、皆々、大喜び。天文臺組賑はしくウイリアムズバーに歸る。

十一月十四日(火)

今日は晝間、バンビー氏の言によつて、夜觀測の準備として、小遊星ローダの位置を研究する。ローダは第九〇七番の小遊星で、昨年、ハイデルベルヒのウォルフ教授がバーナードアナ(バーナード夫人の意)と命名したが、其の後、バーナード教授の提言によつて故夫人の元の名ローダと改名されたものである。

十一月十五日(水)

午前中、昨夜のローダ板を測定、それから計算。
夜は二時反射鏡で、北極附近の寫眞を二枚撮影。其から、天氣の好いのにかかせて、つゞけさまに、アンドロメダ星雲とオリオン星雲とを各々二枚づつ撮つた。僅か三十分の曝露であつたけれど、細かいディテイルまでよく出てゐる。

十一月十六日(木)

今日も午前中、昨夜の北極寫眞を測定、それから計算。
リー氏から、ロマ天文會議の報告文を貰ひ、尙いる()と會議の

土産話をきく。

午前十時半、ミス・カルバートの好意にて、十二時望遠鏡による太陽寫眞撮影を見る。之れは一八九二年、ヘール氏がケンウッド天文臺に居られる時代からの繼續事業で、今年まで實に三十年の歴史を持つてゐる。

午後、英子はパークハースト夫人につれられて、村の婦人會に行く。

十一月十七日(金)

今日からミスカルバートの仕事を引續いで、十二時ケンウッド望遠鏡にして決めて貰つた。しかし今日は空は曇り。

十一月十八日(土)

今夕、吾々も、バンビー氏の家族全部舉つて、リー氏方へ晩餐に招かれて行く。純粹のアメリカ式の饗應。それがすんでから、別室で、皆がダンスのお稽古。吾々も生れて始めて踊る。

十一月十九日(日)

十時半より教會に禮拜。其の後、日曜學校で、自分は大人組に日本の宗教事情を話した。

午後二人で、バーナード教授を訪れたが、ちやうどそこへ、フロスト、バンビー、兩夫妻も來られた。吾々は歸途、更にパークハースト、パレット兩教授を訪れた。
夜、午後六時から婦人會主催の茶話會に招かれて行つた。老若男女皆打解けて、サンドキチミコーフイを食べながら雑談笑談。午後七時半からジェンキンス氏の説教があつたが、言葉が速くて、解りかへた。

歸りは始めての雪空。リー氏の自働車で歸宅。

十一月二十日(月)

今夜は遅くまでかゝつて、小遊星ローダやアイケを二呎反射鏡で撮影し、尙、北極附近の撮影もした。歸宅明曉五時。

十一月二十一日(火)

昨夜撮つた小遊星寫眞、殊にアイケの研究。
バンビー氏の下で行ふ寫眞觀測は、あらゆる天體について一通り

終つたので、(尙、計算は少しく残つてゐるが)、次の日から主としてパークハリスト教授の下で光度研究をやることにする。

十一月二十二日(水)

十二時太陽寫眞のこまなミス・カルバートから引き續いて以來連日曇りであつたが、今日は始めて快晴で撮影が出来た。しかし像は悪い。

夜はヅンビー氏の視差観測を手傳つたが、星像が非常に悪いので中止。

夜半、パークハリスト教授と共に、四十時でオリオン星雲中の四重星中の變光星の最小光輝を見る。

数日前から、英子はヅバンビー夫人に頼まれて、人形に着せる日本の着物を縫つてゐたが、今夕終了。

十一月二十三日(木)

今日はローダ小遊星寫眞の測定と計算。

午後、リー氏の自動車にのせて貰つて、テラヴン、エルクホーンの二つの町へ行つた。日和好く愉快な散歩であつた。夜はフロスト氏方に於けるジュンキンス氏の結婚二十六年記念會に招かれ行く。

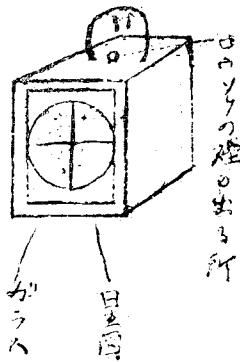
夜、空は晴れてはゐるが、星像悪しく、観測者大困難。
水野千里氏より來書。

星座をおぼえるのに便利なもの

横濱 大庭 濱

星座カードこれは直径二尺位の星圖を作り(赤緯赤經、黃道入り)厚紙にはりつけて各星座に切ぬきます。このカードを四人又は二人にわけて北極星を中心に各自持分のカードを早くならべてしまつた人(組)が勝ちです。○時から六時迄の

カードがA、六時から十二時迄のカードがB、十二時から十八時迄のカードがC、十八時から二十四時迄のカードをDといたします。このカードを早くならべるのに星座の歌さへ知ていればたやすくならびます。この遊を二三度いたせば星座がほゞわかります。



星座ランプ之はビスケットやドロップスの空罐を利用いたしました。自分で作りました。中へ燈すロソクは太くてみぢかい方がよいやうです。

冬の夜なご提燈さ星

座早見ミニ二つ持て外に立て居りますと、寒いのに提燈の火が邪魔になつたり折には提燈がたをれてもえたりして大さう不便でしたので考へついたので。このランプになつてから大さうらくになりました。天を見る時にはランプはウシロ向に置きます火が邪魔にならぬ爲です

自働星座早見をこしらへて見たのですけれき此こまはいつかかきませう普通の時計の器械を一寸直してこりつけければすぐ出来ませうけれき少し六かしいです。